

渡辺 金次郎（わたなべ・きんじろう）

1、プロフィール

昭和 24 年、劇団創弦座を主宰、座付作者、演出家として活躍、数多くの公演を続け、地方演劇発展に尽くした。晩年短歌結社雷鳥に入社、歌人としても秀作を残す。

<生没>

1901(明治 34)年3月 15 日 ~ 1972(昭和 47)年6月 12 日

<代表作>

戯曲集『鮭』『たんぼぼ忌』

歌文集『渡辺金次郎歌文集』

<青森との関わり>

明治 34 年3月 15 日札幌市生まれ。医学の研鑽に励み、昭和7年青森市診療所長就任。昭和 24 年劇団創弦座主宰。

2、作家解説

劇作家。歌人。医師。明治 34 年3月 15 日札幌市に生まれた。札幌市石狩尋常小学校に入学後江別小学校に転校、大正2年卒業。中学校は仙台市の東北中学校に学んだが、大正 10 年奮起して北海道帝国大学予科に入学した。幼少より父母の感化を受け演劇に興味を持った。中学5年の時、雑誌「日本一」の懸賞小説に応募、菊池寛の審査で短編小説「正吉」が入選する。北大予科の頃近代劇を好み、とくにアイルランド劇に魅かれ、シングの「海へ騎りゆく者」などを愛読した。大正 15 年9月新国劇沢正劇団の脚本募集に佳作入選、賞金 40 円を得る。この頃若山牧水の歌誌「創作」に入会、社友として活躍していた。昭和3年医学部を卒業。百川のりと結婚。内科助手として医学に専念する。昭和7年6月青森市立診療所長として赴任、昭和 10 年青森市民病院の誕生と共に初代院長に就任する。

昭和 13 年青森市橋本(現本町)に渡辺内科医院を開業、16 年大工町 10 番地に内科、外科を新設し、病院長となった。昭和 20 年軍医として弘前に駐屯、同年 7 月 28 日大空襲によって青森は焦土と化した。しかし除隊後直ちに病院を再建し、昭和 24 年演劇団体創弦座を設立、医師としての傍ら座付作者、演出家として青森復興の槌地の中で演劇活動に情熱を傾けた。昭和 24 年 12 月 22 日第 1 回の旗上げ公演が市内橋本小学校の講堂で行われた。演目はルナールの「にんじん」と田中千禾夫「骨を抱いて」であった。その後、久藤達郎ら地方劇作家の作品が相次いで上演され、創弦座の活動は第 36 回の渡辺金次郎作「さけ」「たまご酒」をもって終止符が打たれた。内村直也、木下順二ら中央劇作家とも親交があった。還暦記念の「たんぽぽ忌」4 幕は劇作家としての集大成である。昭和 40 年短歌結社雷鳥入社、46 年『渡辺金次郎歌集』48 年『渡辺金次郎歌文集』を出版。昭和 42 年県褒賞。第 9 回文化賞、昭和 45 年勲 4 等瑞宝章を受章。歌人、医師としても多くの業績を残し、昭和 47 年 6 月 12 日逝去。享年 71 歳。

3、資料紹介

○『たんぽぽ忌』

図書

1961(昭和 36)年 8 月 30 日

193mm × 130mm

著者還暦記念に刊行。ほかに「舞い戻る」「落ちた女」、放送劇「雪つぶて」など 6 篇を収録。「たんぽぽ忌」は被災都市青森の和田病院を舞台に町医者として地域住民のために医学取り組み、癌研究に意欲を燃やすが自らも病魔に倒れる。人間愛が心打つ作品。

○「にんじん」(ジェル・ルナール作)第 1 回公演

視聴資料(舞台写真)

1949(昭和 24)年 12 月 22 日

105mm × 153mm

創弦座第1回公演は昭和24年12月22日・23日と2日間にわたって、青森市橋本小学校講堂で上演された。演目はルナール作「にんじん」と田中千禾夫作「骨を抱いて」いずれも1幕物であった。当時は演劇に適する会場はなく第3回公演まで橋本小学校で行われた。

○15周年記念公演「箒星のように」記念写真

視聴資料

1964(昭和39)年9月17・18日

110mm×152mm

創立15周年記念公演のあとの劇団員の記念写真である。「たんぽぽ忌」以来筆を休んでいた渡辺金次郎の久しぶりの多幕物である。稽古場は定まった場所もなく、寺院の好意で貸してくれた本堂の一隅などであった。

○『劇団史—20年のあゆみ—創弦座』

印刷資料(劇団史)

1971(昭和46)年4月

211mm×234mm

劇団「創弦座」創立20周年を記念して刊行した劇団史である。劇団創弦座委員長長川島健三の小史刊行のことば、劇作家内村直也、淡谷悠蔵、高木恭造、久藤達郎、長内和夫などの言葉が寄せられ、創弦座のあゆみとしての舞台写真、公演記録年表などを収めている。

○「創弦座第1回公演」プログラム

印刷資料プログラム

1949(昭和24)年12月22・23日

260mm×182mm

創弦座第1回公演のプログラム。昭和24年12月22・23日午後6時から青森市橋本小学校で上演された。舞台装置は阿部龍応(合成)、浜田正二の名が記されている。当時は劇団員は25名。演目はルナール作「にんじん」、田中千禾夫作「骨を抱いて」であった。

○創立満20周年記念第31回公演「旅いくたび」プログラム

印刷資料プログラム

1969(昭和 44)年 10 月 23・24 日

176mm × 190mm

劇団創立満 20 年記念公演であり、また第 5 回青森市民文化祭参加作品である。青森市教育委員会の共催で、会場は青森市民会館であった。「旅いくたび」は渡辺金次郎戯曲の集大成ともいわれ、プログラムには内村直也が“創弦座と渡辺さん”と題し、祝詞を寄せている。